

高瀬神社 社報

越中一宮



第55号

越中一宮高瀬神社

平成 29 年 9 月 13 日
<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部スタジオ

社頭講話

「いつまでも美しき里を」

宮司 藤井秀弘

今年の七月、八月の二ヶ月間に全国で降った雨の量はどれくらいだったのでしょうか。

私は雨空を眺めながら恨めしく思う日が多い今夏でした。お天気のことですから誰にも苦情をいうことは出来ず、仕方なく部屋で読書している

と、小さい頃に雨で大変な思いをした記憶が蘇ってきて、八十年も前の出来事が昨日のように浮かんで来ました。それは遠い遠い「思い出の里」へ行ってしまったことです。が、なつかしく思うこともありません。また、山の畑で薩摩芋やジャガイモ、ソバを作り、実ったものを担いで、ふらふら歩き、母に叱られながら家まで帰って来たこともありません。私には多くの思い出があります。それは当時、私の身の回りの生活に起こった出来事ではありませんが、いわゆる地域の伝統や習慣とい

う文化が、父母、祖父母の叱るという形となり、それが思い出となって記憶されたのであります。父母、祖父母に叱られたことは、私の心の文化として今も記憶に残っています。

叱られるということを考えてみますと、数年後の素晴らしい思考力や実行力の源になっているのではないかと思えます。若い頃は叱られると「何を！」と反発することが多いでしょう。現在、私を叱ってくれる人がいなくなりまして。当時、なぜ叱られたのか気づけなかったことも多々ありました。その意味を理解することが出来、今は叱る側にいます。これも父母・祖母の叱咤激励のおかげと、ありがたく感じています。

自然が私たち人間を叱るこ

とを「災害」と云うのだろうか。と、私なりに思うことがあります。私たちは叱られるのを避けるために予防策を練りまします。それが不十分だと叱られることになりまします。同じように大自然に叱られる前にそれを避けるための方策がとれないか、「災害」が起きる前に「もしも災害が起きたら」と予想して回避することが出来ないのだろうかと思えます。

美しい景観を永遠に残すために、また、人々の安全な生活を保障するためにはどうすればよいのでしょうか。例えば、谷川があれば砂防ダムを作り、地滑り地域の地下水を抜く工事をするなど、安全地帯がどこなのか綿密な調査を行い安全な環境をつくること。が大切なのですが、自然を大きく破壊して対策を施すことは本末転倒になってしまします。どちらにしても自然からのお叱りをいただかないように工夫が必要です。

昔、甲斐国から信濃国に大きな勢力を有した武田信玄は、住民たちが苦しんだ洪水

を信玄堤によって治水したという話があります。戦国の世であつても災害を防ぐ方法を考え、住民の生活や美しい景観を守ったのですから、毎年のように起きる災害を、私たちができるように受け止め、対策を考えることが大切なことだと思ふのです。

四季の移り変わりの中で新緑を眺めて賛美し、秋の紅葉を眺めて感嘆するだけが美しき故郷を守ることではない。私は思うのです。景観を維持していくために、全ての人たちが智慧を出し、助け合いながら生活の安全を守ることが美しい故郷を維持することに繋がるのではないのでしょうか。何年前かに、どこかのダム建設が「国家予算の無駄遣いだから中止すべき」と判断され、工事が中止となり、その後の洪水で大きな被害が出たとのことですが、もっと住民の要望を聞いて、災害を防ぎ美しき里を守る為には、何が必要かをしっかり検討して決定することが大切だと私は思っています。

祭事暦

高瀬稻荷社例祭

六月三十日午前十時より当神社の末社「高瀬稻荷社」の例祭を斎行しました。この稻荷社は、京都の伏見稻荷大社より勧請し、商売繁盛の神様として崇敬されています。

例祭当日は、講員約三十名参列のもと、稻荷社前、続いて当神社本殿にて「商売繁昌祈願祭」を斎行。日頃のご加護に感謝し、更なる商売繁昌・社運隆昌・職場の安全を祈りました。



夏越の大祓



六月三十日午後三時、「夏越の大祓」を斎行しました。大祓は、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）が黄泉国の穢を禊祓（みそぎはらい）されたことを起源としており、現在では、自らの心身の穢、諸々の罪・過ちを祓い清める神事として全国のお社で行われております。当日は拝殿にて「大祓詞」を奏上の後、参列者各人が罪穢を移した「人形」を「茅舟」に収め、神社前に流れる大門川に祓い流しました。



人形感謝祭

古くなった人形に感謝の真心を捧げ、お別れをする第十八回「人形感謝祭」を七月十六日午前十時より斎行しました。

祭典前には、各人が持ち寄った人形を奉安所に納め、最後の別れを惜しんでいました。祭典には、約七十名が参列し、人形を大麻・切麻にてお祓い致しました。



除熱祭



七月二十一日 午前十時より、炎天下の影響なく、農作物が無く事に生育するよう祈る「除熱祭」を斎行しました。

祭典後、お祓いした御幣を献穀田（南砺市北市）に立て、今後の順調な成長を祈りました。また夕刻には、氏子有志による「熱おくり太鼓」が高瀬の地を練り歩きました。

富山県神社総代会砺波支部
国家隆昌祈願祭

八月六日午前九時より「国家隆昌祈願祭」が斎行されました。祭典後、約百二十名の総代・役員参列のもと、神社世話役表彰が行われ、多年にわたり社務運営に寄与された方々に、根尾絃一神社総代会砺波支部長より感謝状と記念品が贈られました。



表彰に続いて、「第六十回富山県神社総代会砺波支部総会」が開催されました。六十回の節目を記念して、宮田修氏（元N

HKアナウンサー・千葉県熊野神社（宮司）をお招きして『アナウンサーが神職になって』と題してご講演頂きました。出席者一同興味深く聞き入っていました。

○表彰者

- 砺波市庄川町青島鎮座 戸隠神社 世話役 中川 勲氏
- 小矢部市下川崎鎮座 神明社 世話役 松本 達夫氏



**七夕祭並
 技芸上達祈願祭**

八月七日午後三時、七夕にあわせて織姫様のはた織り・裁縫上手にあやかっつて、習い事が上達するよう祈願する「七夕祭並 技芸上達祈願祭」が行われました。

祭典では七夕飾りが祓い清められ、参列者は書き記した願い事が叶うよう、心を込めてお参りしていました。



高瀬忠魂碑慰霊祭



八月十六日午後四時、高瀬忠魂碑にて「慰霊祭」を斎行しました。

神道と仏教、隔年で行われ今年には神道式で約七十名が参列しました。祭壇には、通常の神饌品に加え、郷土産の野菜や果物、菓子等が供えられ、祝詞の奏上に続き、御国の為に尊い命を捧げられた当地出征の英霊七十八柱に感謝の玉串を捧げました。

第十七回人形展

第一期会

七月十五日(土) ~
十七日(月・祝)

木彫や和紙・陶器等、県内外の作家十六名、一団体の創作人形が展示されたほか、草月流富山県支部「秀抱会(梅崎秀鈴会長)」による「いけばな」が会場に彩られました。

▽監修 梅崎 親美 (秀抱)

▽銘木材提供 嶋田 工芸

▽写真提供 荒井 恒雄



牛島 辰馬 (南砺市)



松本 昌子 (南砺市)



安達 陽子 (砺波市)



飛騨山静恵 (富山市)



福島まゆみ (金沢市)



川原 るみ (南砺市)



笹波 美恵 (高岡市)



中林 雅代 (富山市)



つるもりひろこ (野々市町)



熊野 幸子 (砺波市)



南部 祥雲 (高岡市)



横堀貴美子 (射水市)



中嶋外志男 (南砺市)



上野 勝廣 (富山市)



高畠 彩乃 (射水市)



井野 辰弥 (南砺市)



M2ティーパーティー 代表 中村 祐子・如月 幸湖・黒蜜・根木 真紀・紅遊・和田 幸恵



草月流富山県支部「秀抱会」会長 梅崎秀鈴

高瀬の英霊（石岡庄五郎命②）

（魚岸一弥記）



昭和十八年五月三十日
入団記念に撮影された写真

現在、御自宅には石岡庄五郎命の御写真と御家族に宛てた葉書四枚が大切に保管され、当時の御様子を伝えていきます。軍歴については、詳細不明の為、最後に乗艦された藤波の艦歴を御紹介致します。

前号にて、御出征までの経緯を掲載しました。今号では前回御紹介出来なかつた箇所を掲載したいと思います。

海軍に志願され舞鶴にて訓練後、駆逐艦 藤波に乗艦し、各地を転戦されるなか、帰郷時の様子が、実弟の石岡政清氏の元に残された葉書に記されています。帰郷後、近隣の皆様にご挨拶され、「皆さんの達者な顔を拝見して嬉しく思いました」と久々の再会と帰郷を喜ばれ、また当神社を参拝し、南部（社報表紙等を撮影されている南部ス タジオ）で写真を撮ったことなどが記されています。

※藤波は、昭和十八年七月末に竣工し、南洋（トラック島、ラバウル、クエゼリン環礁、サイパン島等）の戦闘、輸送の任務に活躍した艦船です。翌年六月のマリアナ沖海戦を戦い、十月のレイテ沖海戦にて航行不能となった軍艦 鳥海の乗組員を救助しましたが、空襲に会い、沈没。乗組員全員が戦死されました（沈没の経緯については諸説あり、駆逐艦 早霜の救援にむかう際、駆逐艦 不知火とともに撃沈されたという説もあります）。

平成三十年「初詣献灯」の御案内

当神社では「初詣献灯」を実施しております。本行事は、初詣期間中に正参道両側に「提灯」を掲げ、来る新年が更なる輝かしい一年となるよう、尚一層の御神徳を授けて戴くことを願ひ奉納するものです。

一、「初詣献灯」は正月七日まで、境内等参拝者道筋に献灯いたします。

一、「初詣献灯」は、それぞれ正面に希望の芳名（会社・氏名等）を記入いたします。

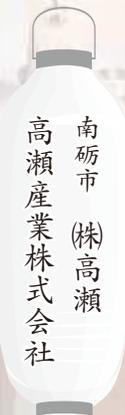
一、献灯者の家内安全・商売繁盛の祈願祭を奉仕いたします。

一、献灯初穂料は、一基につき 金壱萬円御志納願います。

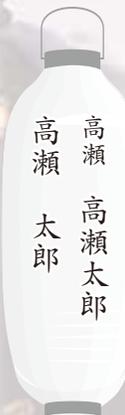
一、申込締切 十一月三十日までにお申込下さい。

※記載芳名 例（約八文字）

一、会社



二、個人



爽涼茶会開催

七月二日、茶道裏千家淡交会 高岡青年部主催の「爽涼茶会」が開催されました。
多湿の梅雨の空気を吹き飛ばすような爽やかな設えとお茶が参拝の方々を楽しませ、終日多くの人で賑わいました。



大輪あさがお展開催

お盆前の八月十日から十二日の三日間にわたり、境内で南砺あさがお会（森田光正 会長）主催の「大輪あさがお展」が開催されました。
大輪朝顔は花径の大きな朝顔のことで、明治後期以降栽培が盛んになり、現在でも広く愛されている園芸植物です。
会員の方々が持ち寄られた色とりどりの見事な朝顔が境内を彩り、多くの方にご観賞いただきました。
本年より毎年、この時期に開催していただく予定です。



新年初祈禱のご案内

一年の計は元旦にあり

福の神・結びの神様であります大国主命(大国様)をおまつりする高瀬神社では、全ての災厄を祓い退け、心に平安をもたらすご神徳により、ご家族皆様の安泰と繁栄、また諸々の願いが成就するよう祈る「新年初祈禱」を斎行しております。

新しい年が事故・災難や病氣・怪我無く、家族の「絆」がより強く結ばれ、幸せに過せるよう、年頭にあたりご家族お揃いでご祈禱をお受け下さい。

・内容 家内安全(開運招福) 諸縁結び 商売繁昌(事業繁栄) など

願意はホームページをご覧ください

・期間 節分の頃までにご参拝ください

午前八時三十分から午後四時三十分まで
(元旦は午前零時から午後六時頃まで)

・受付 ご祈禱入口からお入り下さい

・祈禱料 一祈願五千円より(ご志納願います)

ご祈禱をお受けになり、一年間清々しくお過ごし下さい。

— まず大国様に初詣 —



戌の日(安産祈願)

平成29年

9月8・20日
10月2・14・26日
11月7・19日
12月1・13・25日

平成30年

1月6・18・30日
2月11・23日
3月7・19・31日

腹帯のお祝いも行いますのでご持参下さい。

七五三詣(数え年)

本年は次の通りです。

- 7歳(女子) 平成23年生
- 5歳(男子) 平成25年生
- 3歳(男女) 平成27年生

※10月1日より11月末日まで、毎日午前9時より午後4時30分まで随時受け付けております。

平成30年 厄年・身祝一覧

〈厄年〉 数え年

	前 厄		本 厄		後 厄	
男	24歳	平成7年(亥)	25歳	平成6年(戌)	26歳	平成5年(酉)
	41歳	昭和53年(午)	42歳	昭和52年(巳)	43歳	昭和51年(辰)
	*60歳	昭和34年(亥)	*61歳	昭和33年(戌)	*62歳	昭和32年(酉)
女	18歳	平成13年(巳)	19歳	平成12年(辰)	20歳	平成11年(卯)
	32歳	昭和62年(卯)	33歳	昭和61年(寅)	34歳	昭和60年(丑)
	*36歳	昭和58年(亥)	*37歳	昭和57年(戌)	*38歳	昭和56年(酉)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。
※*…この年を厄とする地域もあります。

〈身祝〉 数え年

	年齢	生まれ年
還暦	61歳	昭和33年(戌)
古希	70歳	昭和24年(丑)
喜寿	77歳	昭和17年(午)
傘寿	80歳	昭和14年(卯)
米寿	88歳	昭和6年(未)
卒寿	90歳	昭和4年(巳)
白寿	99歳	大正9年(申)

※男女ともに祝います。

ご案内

お伊勢参り 落語会のご案内

十月二十五日(水)

午後二時～

当社社初となる落語会「お伊勢参り落語会」を開催します。古典落語、噺の中に描かれる先祖から受け継がれた心の世界、人を思いやる世界をお楽しみ下さい。

※入場料千五百円、入場券は当社社務所にご用意していません。

番組内容

一、笑いの作られ方とその根源
〜笑いつばいの落語

【目薬】〜(五十分)

一、お伊勢さんと笑い、

伝統芸能

〜神様仏様が心のありよう
となつた!〜(五十分)

三遊亭栄楽氏

神職資格取得後、五代目三遊亭円楽に入門し「栄楽」と命名される。平成二十一年より、「お伊勢参り落語会」を恒例化し、今年で九回目。全国の神社で落語会を企画し、売り上げは、奉賛金としている。

歯固め石

当社社では、お食い初めの石「歯固め石」を授与しております。ご希望の方は社務所へお声がけ下さい。

※「歯固めの石」とは

生後百日頃は、赤ちゃんの歯が生え始める時期です。お食い初めの行事では、赤ちゃんに石のように丈夫な歯が生える事を願う「歯固めの儀」を行います。この「歯固めの儀」で使われる石の事を、「歯固め石」と言います。



観月祭「大土地神楽奉納」



平成二十五年、二十七年と当社社で奉納され、多くの皆様にご好評頂きました鳥根県出雲地方に伝わる伝統芸能「大土地神楽」(国指定重要無形民俗文化財)が本年の観月祭にて奉納されます。名月を愛で、神話の国出雲の伝承神楽をご鑑賞下さい。

日時 九月三十日(土)

午後五時～

観月祭奉納

場所 高瀬神社御本殿

ご祈祷

家内安全・交通安全・初宮詣・厄除・人生儀礼など「ご祈祷」は毎日午前九時から午後四時半まで随時受け付けております。祭典・結婚式等で「ご祈祷」できない時間帯もございまして、事前に社務所までお問い合わせ下さい。

編集後記

除熱祭の折に、献穀田の御祓いに行つて参りました。五月には小さかった苗が黄金色に成長した姿を見て、秋のおとずれを感じました。奉耕者を始め、日頃から献穀田に御尽力されている皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

各種お問い合わせにつきましては、社務所へご連絡下さい。
(0763) 8210933

社報バックナンバー

当社社ホームページで
ご覧頂けます。

【表紙写真】

高瀬神社献穀田

特別な方々と特別な場所で特別な神前結婚式



只今
春・夏の婚礼
ご予約
受付中

越中一宮 高瀬神社の神前結婚式は、ご親族だけではなく、ご友人にもご参列いただき、「伝統」と「新しいかたち」の神前結婚式です。縁結び神様のおはからい（御神縁）によって、新郎新婦とご参列の皆様がひとつに結ばれます。

縁結びの神様のもとで幸せのお手伝いをしてみませんか

やさしいあなたの力を必要としています



土・日・祝日の空いた月曜日だけ! 事前にシフトを決めて働きましょう!!
未経験者歓迎! 丁寧に教えます!

仕事内容 結婚式・披露宴でのサービス業をご担当いただきます
勤務時間 土・日・祝日/9:00~18:00の間(披露宴時間による)
勤務地 南砺市高瀬291 高瀬神社内
給与 時給1,000円以上 研修30hは時給900円
待遇 制服貸与 食事手当500円

月単位のシフト制なのであなたの都合に合わせて働けます

高瀬神社 プライダル事業部
Tel (0763) 82-1131 中井 面接随時・先ずはお電話を

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社 🔍 検索